

展示室1・2で作品鑑賞を楽しんだ後は、「コールドアの庭」と「彫刻の庭」に設置された作品を眺めながら、展示室3・ギャラリーへと歩みを進める



6月27日、リニューアルオープン!

「巻頭特集」

滋賀県立美術館

県民の憩いの場として親しまれている、びわこ文化公園。

そのほば中央に位置し、開館以来、

多くの県民へ美術の魅力を発信してきたのが

滋賀県立美術館(旧 滋賀県立近代美術館)だ。

このたび、装いを新たに再出発する同館の軌跡をたどった。

近現代美術を紹介する 県民の応接室

びわこ文化公園内に一歩足を踏み込むと、眼前に飛び込んでくるのは青々と茂る木々、そして情緒あふれる池泉回遊式庭園だ。清流の音は耳に心地良く、園内を吹く風が優しく頬を撫でる。そんな自然を身近に感じられるだけでなく、「文化」と冠した場所ということもあり、敷地内には滋賀県立図書館や滋賀県埋蔵文化財センター、そして滋賀県立美術館も位置している。

前身となる滋賀県立近代美術館が開館したのは、1984年。開館時のコンセプトは「県民の応接室」だった。「国内外の優れた美術作品の鑑賞を通して、県民の美術に対する理解を深め、美に対する感覚を養い、

生活の中におけるおいと心の豊かさをもたらすこと」を目的として掲示。日本美術院を中心とした近代日本画、滋賀県ゆかりの美術・工芸等、戦後アメリカと日本の現代美術を中心とした作品の収集に努めてきた。2016年からは、滋賀にゆかりのあるアーティスト・澤田真一などアール・ブリュットの領域へと展開する。さらに芸術文化の多様性を確認できるような作品もコレクションに加える方針だ。現在の収蔵品は、大津市出身の日本画家・小倉遊亀や、近江八幡市出身の染織家・志村ふくみを筆頭に1809点(2021年3月時点)を数える。



1 2 3 館内のベンチや照明、案内サインなどには信楽焼を使用している。4 キッズスペース内に設けられた棚には今後、絵本やおもちゃを置いて自由に遊べるようにする予定(現在は、コロナ対応のため使用不可)

ほっと癒やしの空間だね!

というのが狙いだ。

建物の改修においては、屋根を薄いグレーに葺き替え、展示室にガス消火設備を設けるなどして作品の安全を確保。近代美術館時代には木々が茂っていたエントランス前の庭を芝生にし、開放感のある雰囲気にした。

正面入り口から館内に入ると、広々としたエントランスが広がる。右手側にカフェとショップ、その奥にポップアップ・ギャラリーとラボがあり、まとめて「ウェルカムゾーン」と名付けられている。入館自体は無料のため、公園に遊びに来たけれど少し休憩したい、お手洗いを借りたいなどの理由で来館しても良い。そこには、「地域に根づく公園の中のリビングルームのような存在になりたい」という美術館の思いが込められている。

小さな子ども連れの家族も気軽に来館できるよう、2階にはキッズスペースを新設。子どもが座りやすい大きめの椅子と机、靴を脱いで遊べるコーナーの他、授乳室のあるファミリールームも設置した。同ルーム以外にも、館内のトイレ全てにベビーカーが完備されているのは心強いだらう。

設備面以外にも、その場所をよりイメージしやすいように各エリアの名称を変更。展示室はそれぞれ1、2、3とナンバリングし、2カ所あ



学芸員 大原由佳子さん 「ひらけ!温故知新」展の企画を担当
学芸員 荒井保洋さん 「Soft Territory かかわりのあわい」展の企画を担当
ディレクター(館長) 保坂健二朗さん 展示会の企画など、館の方針を決めるかじ取り役

ク「おしゃべり美術館」などを開催し、これまで県内外から約430万人が来館したという。

2017年からは休館し、リニューアル整備工事を行ってきた。約4年間の時を経て、今年6月27日、旧館名から「近代」を省き、滋賀県立美術館として生まれ変わる。

リビングルームのような美術館の誕生

リニューアルする美術館の新たなコンセプトは、「リビングルームのような美術館」。上品で静かな印象を持たれていた同館を、誰でも気軽に訪れられるような場に刷新したい

る屋外スペースをそれぞれの展示物に合わせて「コールドアの庭」「彫刻の庭」に、講堂は「木のホール」とした。それらの場所を示す案内サイン、照明の傘やベンチの足などには信楽焼を用い、滋賀のものづくりの魅力を身近で感じられる仕様に。「美術館が来館者の心をリフレッシュする場となり、美術館のファンにもなってもらいたい」と同館職員は呼びかける。

リニューアルオープン 記念の展覧会を開催

開館を記念して開催される二つの展覧会についても紹介しよう。「Soft Territory かかわりのあわい」と、「ひらけ!温故知新」重要文化財・桑実寺縁起絵巻を手がかりに」だ。「Soft Territory かかわりのあわ



美術館内で「Soft Territory かかわりのあわい」展の作品制作に励む作家。ここからどのような作品に仕上がるのか、ぜひ現地で確かめたい

い」は、滋賀にゆかりのある12人の若手作家たちが館全体を使用して新作を展示するもの。休館中に滋賀県内の各地で開催してきた「滋賀近美アートのスポットプロジェクト」の集大成ともいえる本展では、成安造形

大学芸術学部地域実践領域の関連展示も行われる。

もう一つの展覧会「ひらけ!温故知新」重要文化財・桑実寺縁起絵巻を手がかりに」は、滋賀の文化財や館蔵品の新たな一面を知ってもらうと企画された。タイトルに掲げられている《桑実寺縁起絵巻》(重要文化財、近江八幡市・桑實寺所蔵)は、滋賀県内で展観されるのは2010年以来的のこと。作品の存在は知っているけれど実物を観たことがない人、本展で初めてその存在を知る人などにとって、約10年ぶりとなるこの絶好の機会は見見。館蔵品の重要文化財《近江名所図》も期間限定で展示され、会場に華を添える。美術鑑賞に、または公園遊びの休憩に。滋賀県立美術館は、あなたの来館を心待ちにしている。

滋賀県立美術館
Shiga Museum of Art
滋賀県立美術館

JR瀬田駅でバスに乗り換え「文化ゾーン前」下車、または「びわこ文化公園」無料駐車場(北・西・東の3カ所)に駐車して徒歩約5分
<https://www.shigamuseum.jp/>

リニューアルオープン記念展

「Soft Territory かかわりのあわい」

観覧料：一般1,200円、大学・高校生800円、中・小学生600円
※身体障がい者手帳等を持参の場合は無料 ※同時開催のコレクション展も入場可

リニューアルオープン記念コレクション展

「ひらけ!温故知新 —重要文化財・桑実寺縁起絵巻を手がかりに—

観覧料：一般540円、大学・高校生320円
※中学生以下、県内居住の65歳以上、また身体障がい者手帳等を持参の場合は無料 ※本観覧券1枚につき会期中、本展に2回入場可(同時開催の企画展は含まない)

会期：6月27日(日)~8月22日(日)
時間：9時30分~17時(入館は16時30分まで)
休館日：月曜(祝日の場合は開館し、翌日休館)



河野愛 《こどもの foreign object》2021年



重要文化財《近江名所図》狩野派、室町時代(16世紀後半)
滋賀県立美術館蔵(7月27日-8月22日展示予定)

早く観たいな。楽しそう!